

《原 著》

$^{99m}\text{Tc}$ -DTPA-HSA リンパシンチグラフィによる  
下肢リンパ浮腫の診断：  
dynamic study と歩行運動併用の意義

小川 洋二\* 林 邦昭\*

\*長崎大学医学部放射線科

要旨 リンパシンチグラフィにてリンパ浮腫を診断する際の dynamic study と歩行運動の意義を明らかにするために、25 例、50 肢のシンチグラム所見を検討した。検査は  $^{99m}\text{Tc}$ -DTPA-HSA を皮下注射して行い、18 例でそれい部の dynamic study を、13 例で 3 分間の足踏みを行った。シンチグラフィ上のリンパ浮腫の診断基準を (1)リンパ管の描出不良、(2)側副路の描出、(3) dermal backflow とすると、sensitivity 90% , specificity 97% が得られ、良好な診断能であった。上記診断基準に、(4) dynamic study におけるリンパ管の描出遅延、を加えると sensitivity は 95% に上昇したが、specificity は 76% に低下した。RI 投与 1 時間後の static 像を上記診断基準 (1), (2), (3) で診断した場合、歩行運動を行わなかった症例では sensitivity 89% , specificity 67% で、歩行運動を併用すると sensitivity 92% , specificity 100% であった。リンパ浮腫の大部分は static 像のみで診断可能であり、dynamic study では偽陽性があるため注意が必要である。歩行運動の併用は正常のリンパ管を明瞭に描出するのに有用で、positive predictive value を向上させる。

(核医学 36: 31-36, 1999)